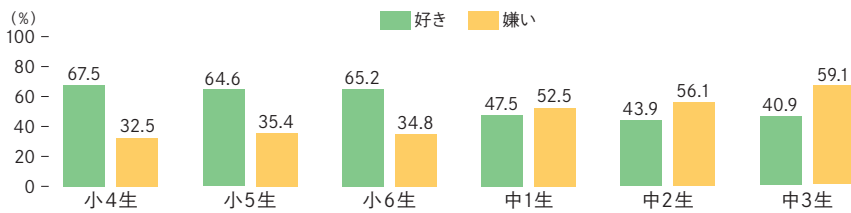


子どもの「勉強好き」を支えるものとは？

今回は、保護者の教育への関心度別に見た小・中学生の「勉強好き」について取り上げます。また、子どもの「勉強好き」を支える要因について、最新データから解説します。

1 「勉強好き」な子どもの割合は、小学生6割、中学生4割

図1 勉強が「好き」「嫌い」な子どもの割合(学年別)



注) 「勉強がどれくらい好きか」とたずねる項目で、「好き」は「とても好き」「まあ好き」を、「嫌い」は「あまり好きではない」「まったく好きではない」を合わせた% (図4～図8も同様)。

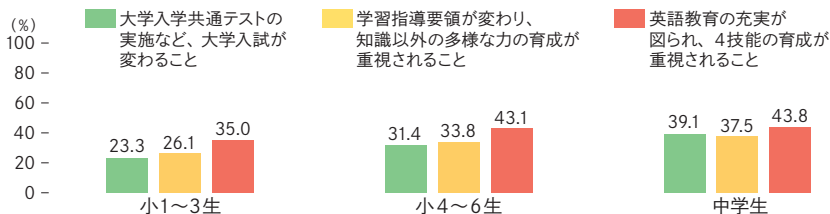
中学生で「勉強好き」が低下

小学生では、勉強が「好き」と答えた子どもは6割いるが、中学生になると、「嫌い」が増え、「好き」を上回る(図1)。中学3年生になると、勉強が「好き」な割合は40.9%と、小6生と比べて24ポイント程度減っている。

子どもの「勉強好き」は何に支えられているのかを、次項から見ていく。

2 教育への関心が高い保護者の子どもほど「勉強好き」が多い

図2 保護者の教育への関心度(子どもの学校段階別)



注) 「変更内容についてよく知っている」「変更内容について知りたい知っている」を合わせた%。

保護者の教育関心度は教育投資額にも関係が

まず、「勉強好き」への保護者の影響について検討する。

保護者の教育への関心度を見ると、すべての学年・学校段階で、「英語4技能育成の重視」への関心が最も高い。また、学年・学校段階が上がるにつれて「知っている」割合が増えている(図2)。

次に、子ども1人あたりの月額教育費を見ると、小4～6生の教育費の平均は1万5,734円、中学生は1万7,395円となっている(図3)。教育への関心度が高い群と低い群で比べてみると、小学生では約8,000円、中学生では約4,000円の差が生じている。

特に注目すべき点は、保護者の教育関心度別に見た、子どもの「勉強好き」の割合である(図4)。教育への関心度が高い保護者の子どもほど、「勉強好き」である割合が高く、小・中学生ともに高群と低群の差が約12ポイントとなっている。

このように、保護者の教育への関心度は、子どもの「勉強好き」に影響を与えていることが分かる。

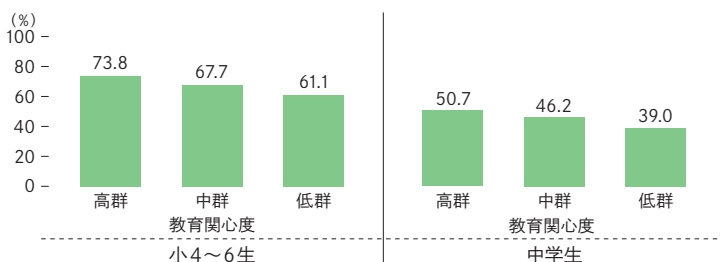
図3 保護者の教育関心度と子ども1人あたりの月額教育費

学校段階別にみた1人あたりの教育費(円)	小4～6生			中学生		
	高群	中群	低群	高群	中群	低群
教育関心度別にみた1人あたりの教育費(円)	20,810	16,593	12,973	19,550	19,000	15,364

注1) 学校段階別と教育関心度別にみた度数は無回答・不明により異なる。

注2) 保護者の教育関心度は、図2にある3項目について各4段階で回答してもらったものを合計した上で、人数で高群・中群・低群に3等分した(図4～8も同様)。

図4 保護者の教育関心度別にみた、勉強が「好き」な子どもの割合



出典 「子どもの生活と学びに関する親子調査2018」

東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所が共同で立ち上げた「子どもの生活と学び」研究プロジェクトによる第4回調査(2018年実施)。毎年、小学1年生から高校3年生までの親子2万組に調査し、子どもの成長プロセスや成長に必要な環境・働きかけを明らかにしている。2019年7月に第5回調査を実施。

◎詳細は下記ウェブサイト(プロジェクトの進行状況)をご覧ください。
<https://berd.benesse.jp/special/childedu/>

データ解説

ベネッセ教育総合研究所
 研究員

野崎友花

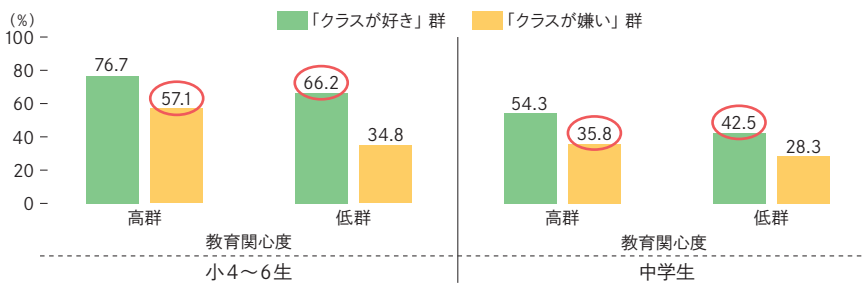
のぞき・ゆか



初等中等教育領域を中心に、子ども・保護者の意識や実態に関する調査研究を担当。近年は、保護者の教育意識や子どもの成長・発達プロセスに関心を抱いている。

3 学校で育まれる良好な関係性が子どもの「勉強好き」を支える

図5 クラスが好き／嫌い別に見た勉強好きの割合(保護者の教育関心度別)

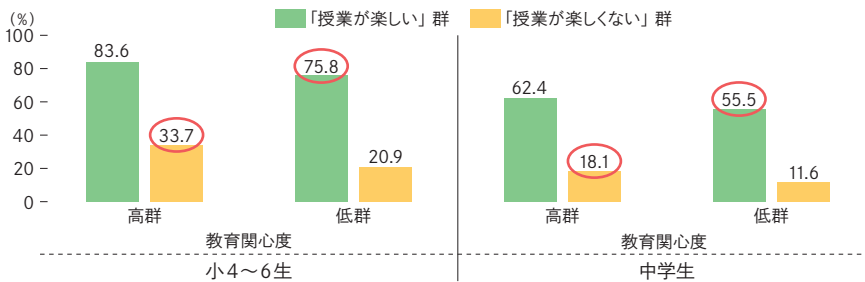


「クラスが好き」なほど「勉強好き」の割合が高い

保護者の教育への関心度以外で、子どもの「勉強好き」に影響する要素はあるだろうか。図5~図8では、学校や友だちに関連する項目を用いて検討している。

図5は、クラスが好き／嫌い別に見た「勉強好き」の割合を、保護者の教育関心度別に比較している。「保護者の教育関心度が低くても、クラスが好き」な子どもの方が、「保護者の教育関心度がは高いが、クラスが嫌い」な子どもよりも「勉強好き」の割合が高い。つまり、保護者の教育関心度よりも、子どもの学級への適応度の方が、「勉強好き」に関連していると言える。

図6 授業が楽しい／楽しくない別に見た勉強好きの割合(保護者の教育関心度別)



他者とのつながりが「勉強好き」に

さらに、「授業が楽しい／楽しくない」「尊敬できる先生がいる／いない」「友だちと勉強を教え合う／教え合わない」と「勉強好き」との関連を見ると、最も大きな差があったのは「授業が楽しい／楽しくない」(図6)で、「保護者の教育関心度が低くても、授業が楽しい」子どもの方が、「勉強好き」の割合が高い。「楽しい／楽しくない」の差を見ると、小・中学生でそれぞれ約40ポイントの開きがあった。

次に差が見られたのは、「尊敬できる先生がいる／いない」(図7)で、学校段階を問わず、教員の存在が子どもの「勉強好き」に与える影響が大きいことが分かる。また、「友だちと勉強を教え合う／教え合わない」(図8)では、特に小学生に差が見られた。

総じて、保護者の教育への関心の高さよりも、学校で培われる教員や友人との良好な関係性の方が、子どもの「勉強好き」に影響しており、学校で育まれるそうした他者とのつながりが、子どもの学習意欲を下支えしていると言えるのではないか。

図7 尊敬できる先生がいる／いない別に見た勉強好きの割合(保護者の教育関心度別)

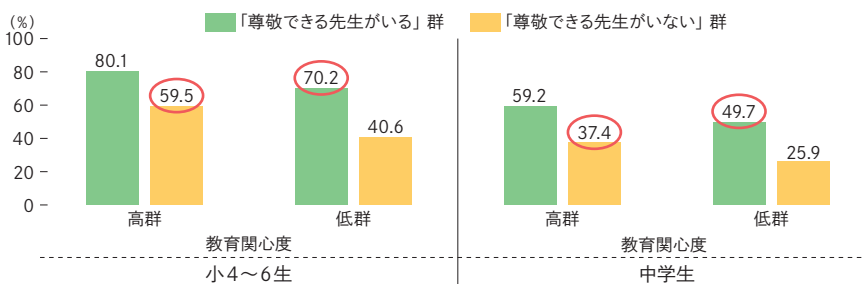
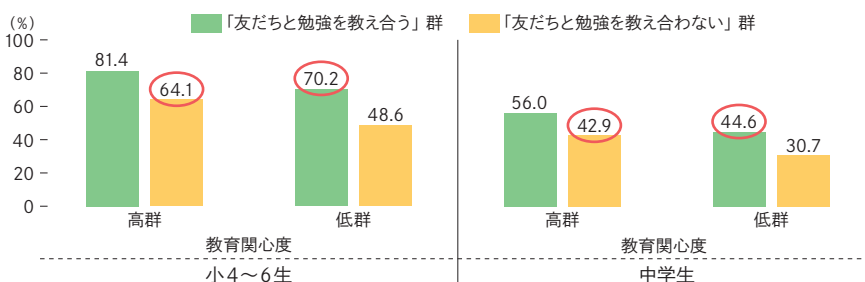


図8 友だちと勉強を教え合う／教え合わない別に見た勉強好きの割合(保護者の教育関心度別)



注) 図5~8は、学校に関してたずねた項目の回答を肯定群と否定群に分け、勉強好きの割合を算出した。